

赤土等に係る環境保全類型【海草藻場】

類型	堆積指標 SPSS(kg/m ²)	海域の概観
海草藻場 A	1～50未満 (ランク3～5b)	透明度は高く清浄な海域だが、海草に捕獲された懸濁物質が藻場内にとどまることもある。サンゴ類では、エダコモンサンゴ等が海草とともに群落をなすことがある。海草藻場内にはクサイロカノコ、コブヒトデ、ハコロモ等が専所的に住み、藻場縁の砂地にはタケノコカイ科等が棲住する。周辺ではキンセンイシモチ、ミツボシキウセン等の魚類が遊泳する。
海草藻場 B	50以上 (ランク6～8)	一見して赤土等の堆積がわかり、海草上に浮花が散る。底質腐拌で赤土等が色濃く懸濁。ユウキウアマモ等の海草藻場にはミツデサボテングサ等も湛住し、専所的にヒメグワノミカニモリやフトコロカイ等の貝類が主居する。周辺ではササハセ属等の死質を好む魚類が主居する。

赤土等に係る環境保全類型【干潟】

類型	堆積指標 SPSS (kg/m ²)	海域の概観
海草藻場 A	1～100未満 (ランク3～6)	底質の表面に堆積物質がみられる。底質成分で赤土等が堆積する。SPSS値が100kg/m ² に近づくに従い、種の多様性は高くなる。干潟の表面に甲殻類のミナミコメツキガニ、リュウキュウコメツキガニ、ミナミスナガニ等が見られる。
海草藻場 B	100以上 (ランク6～8)	底質成分で赤土等が色濃く堆積。SPSS値が高くなるに従い、種の多様性は低下する。干潟の表面に数種のウミナメナガニが見られ、形内にはミナミメナガオサガニが主となる。点状する岩には、ヒバリガイモドキ、マルアマオブネ、シロスジフジツボ等が主となる。

76監視海域に
現況類型と目標類型をあてはめ



現況よりもワンランク上以上の類型を目指す。

スライド24

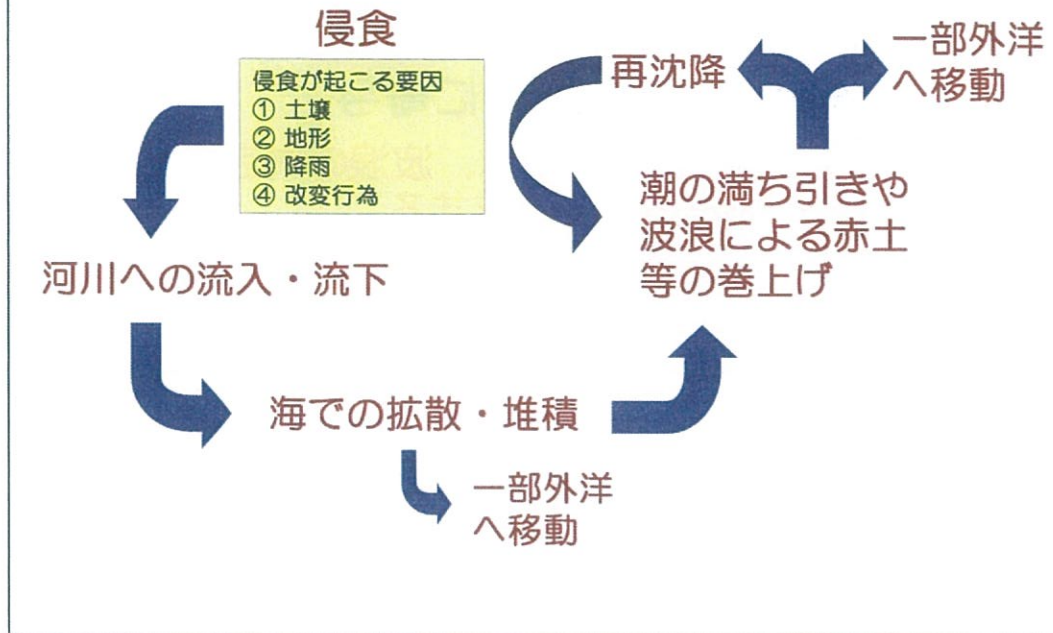
現況よりも、ワンランク上の類型を目指すようにします。

流出削減目標量について

スライド25

つづいて流出削減目標について、お話したいと思います。

赤土等の流出のプロセス



スライド26

赤土の流出プロセスの説明をします。
雨などで侵食が起こりそれが河川、そして海へ拡散し堆積します。
一部は外洋へ流れたりします。
堆積した後、潮の満ち引きや波浪などで再度巻き上げられ、一部が外洋へ流れ出ます。